

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

# 経済的貢献

世界経済は大きな転換期を迎えています。世界各地で都市化が進行し、インフラ整備が急務になるとともに、移動手段としてのモビリティへのニーズも変化しつつあります。グローバルに展開する自動車メーカーとして、日産にはすべての人にモビリティを提供し、持続可能なモビリティ社会を実現するという大きな目標があります。その達成に向け、世界のあらゆる市場で製品やサービスを提供すべく、各国の経済力の変化を詳細に把握し事業を地理的に拡大するとともに、開発から部品・資材調達、製造、物流、販売に至るすべてのバリューチェーンをグローバルに展開しています。

こうした企業活動を行っていくうえで、日産は自らの持続的な利益ある成長が不可欠なものだと考えています。利益ある成長は、雇用創出や地域の発展など社会全体の経済的発展に貢献します。日産は企業としての経済的な価値を最大かつ持続的なものにするために、経営戦略を策定し、実行しています。また、「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げる日産は、技術革新に常にチャレンジし、ゼロ・エミッション車をはじめとする新たな市場を創出するなど、社会全体に対する価値を生み出していきます。そして、その成果を多くのステークホルダーと共有していきます。

## 取り組みの柱

車両生産拠点

〈2017年3月末時点〉

**20**カ国・地域

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 経済的貢献

### CSRスコアカード

2016年度目標に対する達成度 ✓✓:達成 ✓:ほぼ達成 ×:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標と長期ビジョン	進捗確認指標	2016年度実績 <sup>①</sup>	評価 <sup>②</sup>
企業としての利益ある成長を加速	「日産パワー88」を実行・推進し、2016年度末までに連結営業利益率8%、グローバルマーケットシェア8%を達成する。そして持続的な利益ある成長を目指し、あらゆるステークホルダーに長期的な価値を提供し続ける	連結営業利益率(連結会社、中国合弁会社比例連結ベース)	7.0%	✓✓
		グローバルマーケットシェア(連結会社)	6.1%	×

① 2017年5月決算発表時点

② 2016年5月発表の2016年度見通しに対する評価



▶▶ GRI G4 Indicators  
▶▶ G4-6

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 経済的貢献への取り組み

日産は事業を通じて、社会の経済的発展に貢献するとともに、社会の成長を持続可能なものにするを目指しています。日産は企業価値を最大化するため、経営戦略を着実に実行していきます。

### 推進体制

日産グループは日産自動車株式会社とその子会社、関連会社およびその他の関係会社で構成されています。主な事業としては、クルマや部品を製造・販売する自動車事業に加え、販売活動を支援するための販売金融サービスも行っています。

世界的な本社機能として「グローバル本社」を設置し、各事業への資源配分を決定するとともにグループ全体の事業を管理しています。またグループを「日本・アジア・オセアニア」「中国」「北米」「中南米」「欧州」「アフリカ・中東・インド」という6つの地域に分けたマネジメント・コミッティによる地域管理と、研究・開発、購買、生産といった機能軸による地域を超えた活動を有機的に統合した組織により運営しています。

### 企業としての利益ある成長を加速

日産は自動車産業に大きく貢献する企業として世界をリードする役割を担っています。世界中の人々に最適なモビリティを提供する使命があり、持続可能なモビリティ社会の実現に向け、さまざまな課題の解決に貢献する必要があります。またイノベーションを通して新しい価値を創造し人々に提供することも日産の重要な目標です。こうした使命を果たすためにも企業として利益ある成長を持続することが不可欠です。日産は、企業としての実力を100%引き出すことで、社会全体に対しても雇用創出をはじめとする価値を生み出したいと考えています。同時に、重点分野および市場への戦略的な投資も継続しています。今後も適切な利益確保に努め、社会に対する価値創造を継続的に高めることを目指します。

### 重点分野および市場への戦略的な投資

グローバル市場における日産の成長を加速させるには、事業と市場を拡大し、世界のあらゆる市場でお客様のニーズに合った商品を提供する必要があります。特に気候変動問題やエネルギー問題は世界中のお客様が懸念している緊迫した課題であり、その解決に貢献することはグローバル企業として重要な使命となります。またクルマによる交通事故を減少させることも自動車業界のグローバル・リーダーとして果たすべき役割です。このような社会問題の解決に向けた技術に積極的に投資していくことが、日産の長期的な成長につながります。

日産は2016年に「ゼロ・エミッション」「ゼロ・フェイタリティ」の実現に向けたビジョン「ニッサン・インテリジェント・モビリティ」を発表しました。これは、世界中のお客様に向けて、安全かつ持続可能な社会の実現を目指すためのビジョンです。日産はこのビジョンのもと、クルマの「電動化」「知能化」、そしてクルマと社会がつながる「コネクテッド・カー」を実現し、将来的なモノづくり機能や新たなサービスを拡充していきます。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

知能化については、2016年8月に日本で発売した新型「セレナ」に高速道路の単一車線での自動運転技術「プロパイロット」を搭載。渋滞時にアクセル、ブレーキ、ステアリングすべてを自動化する技術は、日本の自動車メーカーでは初めてのものです。電動化については、2016年11月に新しい電動パワートレイン「e-POWER」を搭載した「ノート e-POWER」を日本で発売。ガソリンエンジンで発電した電気で走行する「e-POWER」は充電を気にする必要がないうえ、EVを運転する楽しさを体験できます。

コネクテッド・カーについてもお客さまが仕事やエンターテインメント、ソーシャルネットワークでより容易につながるサービスを開発するとともに、遠隔車両診断や予防メンテナンスなど、アフターサービスを使いやすくするサービスの提供を目指しています。その実現に向け、ルノー・日産アライアンスとマイクロソフト社は次世代技術開発の提携に関して複数年契約を締結しました。今後、マイクロソフト社のインテリジェントクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」と連動した車両向けコネクテッド・サービスを共同で開発していきます。

また、モノづくり機能の強化に向け、三菱自動車の発行済み株式の34%を取得。三菱自動車はルノーと日産のグローバルなアライアンスの一員となりました。アライアンスは世界トップ3の自動車グループとなり、2016年度のグローバル販売台数は1,000万台に達しています。今後、さらなるスケールメリットを創出し、お客さまのニーズに応えるクルマを提供するために、革新的な技術や生産能力をグローバルに強化していきます。

### 新たな価値の創出や競争力の強化を目指す「攻め」のIT活用

日産は2016年、収益拡大や事業革新に向け積極的なITの活用を実施している優れた上場企業として「攻めのIT経営銘柄」に選定されました。経済産業省が、日本企業の戦略的IT活用を促進するため、東京証券取引所と共同で2014年度に創設したもので、今回が2度目の銘柄選定です。

企業の製品・サービス開発強化やビジネスモデル変革を通じて新たな価値を創出し、競争力の強化を目指す「攻め」のIT活用は、世界中の先進企業が積極的に行っているとされています。本銘柄は、積極的に「攻めのIT経営」に取り組む企業を投資家等へ紹介するとともに、IT活用の重要性に関する経営者の意識変革を促すことを目的としています。

日産のグローバルIT戦略である「VITESSE」\*に基づくソリューション構築を経営戦略と連動して実行している点が評価されました。具体的には2015年、ヒューレット パッカード エンタープライズ、シーメンスとともに自動車業界初となる本格的な次世代設計基盤をグローバルに構築。2016年1月には「日産リーフ」などに搭載されているコネクテッドテレマティクスシステムに、マイクロソフト社のクラウドプラットフォーム「Microsoft Azure」を採用することを発表。5月にはクラウド型人事ソリューション「Workday HCM」を導入し、人事面においてもグローバルにプロセスの共通化を推進していくことを発表しました。

今後もグローバルに新規事業が拡大する中、日産は経営とITの連動に引き続き取り組み、企業価値のさらなる向上を図っていきます。

\*「VITESSE」とは、「Value Innovation」「Technology Simplification」「Service Excellence」の頭文字をとったもので、ITによるビジネス価値の創造をスピーディーに進めることを目的としている



攻めのIT経営銘柄  
Competitive IT Strategy Company

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	日産のCSR戦略	日産のCSRマネジメント	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 株主・投資家の皆さまとの対話

**株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、IR(株主・投資家向け広報)活動においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。**

#### 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションとして、四半期ごとの決算説明会に加え、機関投資家への個別訪問や証券アナリストとの取材対応を頻繁に行っているほか、会社主催の事業説明会や証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況などを積極的に情報開示しています。また、証券会社と共同で、個人投資家向けの会社説明会も実施しています。さらに、投資家向けのウェブサイトを経営し、随時最新情報を開示しています。

事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層から積極的に情報提供しています。2016年度は、ダットサン事業やASEAN地域の動向や戦略についての説明会を実施しました。日産は、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などに関して、さまざまな機会を通じて情報開示に努めています。

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

#### 第117回株主総会

第117回定時株主総会は、2016年6月22日、パシフィコ横浜で開催され、2,098名の株主の皆さまにご出席いただきました。株主総会後にはCEOをはじめ執行役員以上が全員参加する懇親会を行い、対話の機会を持ちました。

株主総会は、日産の経営陣が株主の皆さまと直接コミュニケーションをとれる貴重な機会です。株主総会をはじめとする株主の皆さまとのさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても十分な説明をすることで、信頼に添えていきたいと考えています。

また、株主総会に際しては、株主の皆さまの日産への質問や意見を事前に募集し、説明や報告、質疑応答を充実させる取り組みを、2009年から続けています。

#### IR活動で外部から高い評価

日産は、公益社団法人日本証券アナリスト協会主催の第22回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、自動車・同部品・タイヤ部門の3位に選定されました。「ディスクロージャー優良企業選定」は、企業の情報開示向上を目的に設立され、各業種のアナリストが、経営陣のIR姿勢、説明会、フェアディスクロージャー、コーポレートガバナンス、自主的情報開示の5項目における評価を行います。日産は、タイムリーで公平な情報開示やウェブサイトでの情報提供といったフェアディスクロージャー、積極的な説明会や見学会の実施といった自主的な情報開示、コーポレートガバナンスの項目などが高く評価されました。

▶ [website](#)

▶ IR情報に関する詳細はウェブサイトをご覧ください